

2026 年 8 月 3 日

## 富士テクノホールディングス（9243）

売上と経常利益は増収増益も、のれんの減損による赤字転落。グループでの注力・成長分野がわかるようなセグメント報告を模索する段階にある。

TOKYO PRO Market | IT サービス | 決算フォロー

BLOOMBERG 9243 JP | REUTERS 9243 .T

**直近業績**：26年5月29日発表の26年3月期通期業績は、売上高が前年比2.2%増の33.2億円、経常利益が同21.3%増の1.1億円となるも、当期純損失は69百万円の赤字転落となった。赤字要因となったのは1.4億円の減損損失であり、これは傘下企業であるアイティーデザイン(株)を過去に買収した際に計上したのれんのうち、未償却分の残高を減損したことによるものである。このため、営業キャッシュフローは1.17億円の黒字となっている。

主要な事業別での売上は、情報処理請負事業が前年比3.0%減の8.75億円、技術者派遣事業が同5.1%増の23.7億円、プロダクト販売事業が同17.7%減の72百万円となった。

**今後の見通し**：27年3月期の通期会社計画は、売上高が前年比5.4%増の35億円、経常利益が9%増の1.2億円、当期純利益が90百万円での増収・黒字転換。配当については未定となった。26年3月期の赤字要因となったのれん減損については、減損後の残高が77百万円であることから、赤字継続のリスクは小さいと言える。事業拠点も神奈川県や愛知県が中心であり、7月の熊本地震からの直接的影響も少ないだろう。

当社は『情報処理事業』の単一のセグメントを取っており、その中に含まれる『情報処理請負事業』『技術者派遣事業』『プロダクト販売事業』の3種の事業の売上高を開示している。主要3事業のうち、プロダクト販売事業は26年3月期の全体売上の2.2%であるため、グループの売上区分の代表性に乏しくなっている。また情報処理請負事業と技術者派遣事業も、もしそれが同一分野での類似するサービスの契約形態を変えているだけであれば、その比率自体は外部投資家にとってそれほど重要な情報ではないと考えられる。

このほか、傘下企業6社のうち(株)富士テクノソリューションズ、(株)横芝、(株)中日本技研の3社の売上高、経常利益、税金等調整前当期純利益、総資産額を開示している。26年3月期にのれんの減損対象となったアイティーデザイン(株)は、こうした個社別の業績開示の対象外であった。同社の事業は半導体LSI設計や組み込みソフト開発など、AIやIoTに関連した注目度の高い分野である。今回の減損がTAM（Total Available Market）の問題なのか、実績でみた採算性の問題であったのかを開示資料から推察することは難しい。

こうした背景から、グループでの注力分野を代表するような報告セグメントを再定義し、その採算性の開示を模索する段階にあると言える。

### 業績推移

| 事業年度  |       | 2023/3 | 2024/3 | 2025/3 | 2026/3  | 2027/3F |
|-------|-------|--------|--------|--------|---------|---------|
| 売上高   | (百万円) | 2,711  | 3,094  | 3,250  | 3,322   | 3,500   |
| 経常利益  | (百万円) | 39     | 66     | 90     | 110     | 120     |
| 当期純利益 | (百万円) | 32     | 40     | 67     | (69)    | 90      |
| EPS   | (円)   | 40.50  | 50.13  | 83.70  | (86.99) | 112.14  |
| PER   | (倍)   | 12.35  | 10.37  | 5.97   | --      | 4.28    |
| BPS   | (円)   | 140.91 | 173.90 | 240.61 | 133.61  | --      |
| PBR   | (倍)   | 3.55   | 2.99   | 2.08   | 3.59    | --      |
| DPS   | (円)   | 15.00  | 17.00  | 20.00  | 20.00   | --      |

(出所：会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=会社予想)

## フィリップ証券株式会社

配当予想 (円) - (会社予想)  
株価 (円) 480 2026/8/3 (基準値)

### 会社概要

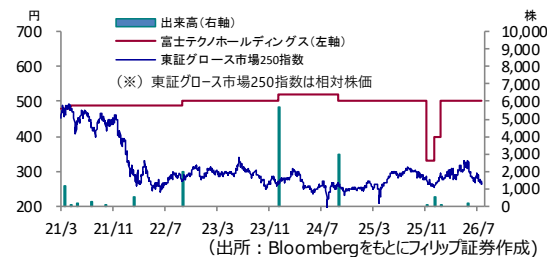
1976年にPC関連商品の販売などを目的として設立された有限会社「富士商会」が前身。グループ中核子会社の富士テクノソリューションズは2002年に日本証券業協会よりグリーンシート銘柄として指定。2017年3月に指定を取消。同年9月にTOKYO PRO Marketに上場。

2021年10月単独株式移転により持株会社に移行し、富士テクノホールディングスとなる（富士テクノソリューションズはTOKYO PRO Market上場廃止）。

富士テクノグループは「(株)富士テクノソリューションズ」「(株)横芝」「中日本技研(株)」「(株)エフティ・ファインテックプロダクト」「(株)富士ミライ」「アイティーデザイン(株)」を含む連結子会社6社にて構成される。

自動車部品や半導体製造装置企業などの国内製造業を顧客とする。主要事業は、①情報処理請負事業、②技術者派遣事業、3Dプリンタ等のハードウェアやCAD関連のソフトウェア、環境構築運用コンサルティングなどを提供する③プロダクト販売事業である。本社のある神奈川県厚木市を主要拠点とし、東京都・大阪府・愛知県の1都1府2県にて営業活動を行っている。

### 株価推移



### 主要株主：

|              |       |
|--------------|-------|
| 1.高井 男       | 33.74 |
| 2.株式会社高井企画   | 17.89 |
| 3.原田 久仁子     | 12.44 |
| 4.高井 澄子      | 5.79  |
| 5.株式会社アド・ソアー | 5.30  |

\* 6/30開示の『コーポレートガバナンス報告書』に記載の数値による

\* 上記数値は新株予約権による潜在株式数を含まない  
(出所：会社公表資料をもとにフィリップ証券作成)

### リサーチ部

#### 三角 友幸

tomoyuki.misumi@phillip.co.jp  
+81 3 3666 0707

#### 笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp  
+81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 4 番 2 号

TEL:03-3666-2101 URL： <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者： リサーチ部 三角友幸

公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として本レポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

< 日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平 14.1.25）」に基づく表示 >

1. フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。
2. フィリップ証券は、東京証券取引所の定める「特定上場有価証券に関する上場規程の特例」（以下「特例」）第 102 条の規定または福岡証券取引所の定める「特例」第 102 条の規定に基づき、発行会社の担当 J-Adviser または F-Adviser、あるいはその両方に就任する旨の契約を締結いたしております。また、フィリップ証券は、東京証券取引所の定める「特例」第 135 条または福岡証券取引所の定める「特例」第 135 条に定める流動性プロバイダーであり、発行会社株式の円滑な流通の確保に努めるほか、流動性プロバイダーとしての義務を負っています。